令和４年度 第１回熊本市移動等円滑化推進協議会 議事要旨

Ⅰ 開催日時
令和４年８月 30 日㈫14:00～15:50

Ⅱ 開催場所
桜の馬場城彩苑多目的交流施設

Ⅲ 委員名簿　20 名（うち欠席３名：佐藤委員、福島委員、安田委員）

氏名		所属・職業・分野等
○相藤 絹代	あいとう きぬよ	熊本学園大学非常勤講師
井坂 智徳	いざか とものり	九州旅客鉄道㈱熊本支社　副支社長
伊藤 幸喜	いとう こうき	熊本市交通局　次長
岩永 謙二	いわなが けんじ	熊本県バス協会乗合業務委員会　委員 （九州産交バス㈱　営業部長）
植田 洋平	うえだ ようへい	熊本障害フォーラム事務局
オノユリ	おのゆり	子育てネットワーク「縁側 moyai」　代表
黒木 三奈子	くろき みなこ	（一財）熊本国際観光コンベンション協会　事業推進課長
坂口 美果	さかぐち みか	公募委員
佐藤 哲	さとう さとし	熊本県立大学環境共生学部 准教授
白石 勇人	しらいし はやと	九州運輸局熊本運輸支局 首席運輸企画専門官
髙梨 沙織	たかなし さおり	熊本市 PTA 協議会 市 P 担当副会長　部会長
竹内 久美	たけうち くみ	（公社）熊本県理学療法士協会 理事
堤 信二	つつみ しんじ	熊本県警察本部交通部交通規制課長
長江 浩史	ながえ こうじ	WeDO くまもと 代表
中野 育生	なかの いくお	熊本電気鉄道㈱ 鉄道事業部 副部長
福井 克典	ふくい かつのり	熊本市中央区土木センター維持課　技術主幹
福島 英隆	ふくしま ひでたか	（一社）熊本市タクシー協会 専務理事
増永 創	ますなが はじめ	熊本駐車場協会　事務局長
安田 二郎	やすだ じろう	熊本市商店街連合会　会長
◎八幡 彩子	やはた あやこ	熊本大学大学院教育学研究科 教授

※50 音順・敬称略　◎会長、○副会長

Ⅳ 次第
１　開会
２　事務局の変更及び新委員の紹介
３　事務局挨拶
４　議題
【報告事項】
（１）バリアフリーマスタープランの構成について
（２）意見聴取結果について（まちあるきワークショップ）
（３）生活関連施設・生活関連経路の選定について
（４）今後のスケジュールについて
【協議事項】
（１）取組方針の検討について
（２）バリアフリーマップの作成について
５　閉会

Ⅴ 議事要旨

＜事務局から報告事項について説明＞

（１）バリアフリーマスタープランの構成について
（２）意見聴取結果について（まちあるきワークショップ）
（３）生活関連施設・生活関連経路の選定について
（４）今後のスケジュールについて

オノユリ委員

・縁側 moyai のまちあるきワークショップ参加者からの意見として、ある箇所の段差がベビーカーを押しにくいとの意見を出したが、事務局からの報告においてはその箇所の話ではなく総論としてまとめられていたため、意見の出た箇所を改修の対象として管理者に届けてほしい。
・まちあるきワークショップの日程について、九品寺・水前寺地区、健軍地区では７月後半の 15 時でお声掛けいただいたが、15 時から 17 時は子育て世代にとって一番動きにくい時間帯であり、団体内で声掛けしても参加者が集まらなかった。今後まちあるきを開催する際には、日程や時間帯からご相談いただけるとよい。

事務局

・まちあるきワークショップの結果は主なご意見として抜粋して整理している。挙げられたご意見については今後取組の一つとして整理したうえで、各管理者様にご協力いただきながら取り組んでいきたいと考えている。
・まちあるきワークショップでは、当事者から普段気づかない視点でのご意見をいただくことができ、今後も継続的に開催していきたいと考えているため、多くの方にご参加いただけるよう日程等についても配慮していきたい。

坂口委員

・長距離移動や旅行の際は車椅子を使用しているが、街中では段差があったり勾配がきつかったりして行動が制限されてしまうため歩いている。３月に中心市街地のまちあるきに参加した際には、歩道のがたつきや段差が多いと改めて感じた。
・旅行が好きで各地を訪れるが、景観を乱さない程度にバリアフリー化されており、例えば倉敷では駅から中心部までの街並みがとてもきれいで車椅子で移動しやすく、また行きたいと感じた。
・まちあるきワークショップを３回開催した中で、共通して挙げられたご意見はあるか。
・段差の解消等の問題があるが、管理者の協力が得られないとバリアフリー化は進まないため、実際に商店街の店舗の方などのご意見を聞いてみたいと感じた。
・11 ページの短期の取組に、「視覚障害者誘導用ブロックの上に物を置かないよう、店舗などに啓発活動を行う」との取組があるが、そもそも歩道上に看板や商品、ごみを置かないようにする取組が必要ではないか。

八幡会長

・整備はされていても継続的な維持管理が求められることなど、多面的視点からご意見をいただいた。一人一人がごみを拾うなどの意識を醸成することが重要だと思う。

長江委員

・下通繁栄会の役員をしており、団体として清掃活動を行っているが、さらに取り組む必要があると感じた。かなりごみの量が多いため、一人一人がごみ拾いするなどの取組が重要であり、それによって安全な街につながると考える。
・身体障がいの立場でまちあるきに参加したが、個別の点の意見から線や面に広げなければならず、例えば、施設はバリアフリー化されているが、そこまで行くことができるかなどを考える必要がある。

・WeDO くまもとでは、グリーンベルトというフラットな道をつくることを提唱している。ルートを設定した際に、そのルートがフラットで車椅子やベビーカーが通ることができるかなどの検証をしていくと、点が線・面になってくると考える。

植田委員

・長江委員のおっしゃる通り、マスタープランの大きな目的として、点から線につないで面にしていくことが重要だと感じる。まちあるきワークショップでは、車椅子で通ることができるルートが対象となっていたが、実際には車椅子で通ることができない歩道が多くあり、そのような歩道を整備するうえでは、高齢者や障がい者が多く住んでいるところを生活関連施設として指定していく必要があるのではないか。住宅周辺のバリアフリー化が進まなければ、住宅からバス停に向かうことが難しいため、生活関連施設に共同住宅も位置付けていただきたい。他の市町村でも３か所で公営住宅もしくは共同住宅が生活関連施設に位置付けられている。

黒木委員

・観光案内所を運営する中で、観光の目線でバリアフリーについてアドバイスしていただけるよう、ＵＤくまもとという組織に委託し、バリアフリー情報を発信している。車椅子で熊本市に訪れた際に行けるところはどこか、とのご質問をいただくことが多く、一緒にこのようなコースはどうかと相談しながらご提案している。バリアフリーに関する情報が世の中に出回っていないため、専門的な方に相談するしかない状況となっているが、誰もがバリアフリー情報にアクセスできるようになるとよい。

事務局

・まちあるきワークショップで共通した課題としては、歩道上の舗装の劣化に伴うがたつきなどの道路関係のご意見が多かった。旅客施設については、表示の文字が小さいなどが挙げられ、建築物についてはトイレに関するご意見が多く、特に古い建物ではスペースが小さいなどのハードに関するご意見が多かった。
・商店街の方々のご意見を伺うことについては、健軍地区のまちあるきワークショップで同様のご意見が出ており、今後は商店街の方々に市民の生の声を感じてもらえるような場を設けたいと考えている。
・各施設にまちあるきワークショップをご相談するにあたり、管理者から参加者のご意見をぜひ聞かせてほしいとのご意見を頂戴しているため、まちあるきで挙げられたご意見については、施設管理者に共有していきたい。
・歩道上へ物を置かないことについて、歩道上は行政の許可なくものを置いてはいけないため、市として指導を積極的に行う責務があると感じている。
・すべての路線をバリアフリー化するのが理想ではあるが現実的ではないため、バリアフリーマスタープランにて利用が多いと想定される経路を生活関連経路として選定し、重点的に取り組んでいきたいと考えており、今後のまちあるきワークショップにおいては生活関連経路における具体的な課題の洗い出しを行っていきたい。
・共同住宅は生活関連施設として設定することは想定していなかったが、ご意見のとおり住環境が整わないことには外出することが難しいと考えるため、参考にさせていただく。

八幡会長

・まちあるきワークショップのご意見は広く市民に共有できると、バリアフリーへの関心を高めていただくきっかけになると思う。

竹内委員

・経路について、まちあるきワークショップは晴天などの好条件で実施したものと思うが、雨天時は車椅子や杖を使用していると傘が使えない、タイルが滑るなどのご意見があると思う。公共交通機関に乗ってもその先に行けず、生活が止まるということを考えると、そのようなことを考慮した経路として、例えば通町筋バス停等から付近の施設まで軒下が繋がっているなどができればよいと思う。

・障がいのある方が復職をする際に、公共交通機関沿いに就業施設ができると、公共交通機関を活用して通勤できると思う。

岩永委員
・バス停については複数の社が、効率化やわかりやすさの向上に努めているが、時刻表の読みやすさについては取り組めていない状況である。各バス停の掲示物の高さについて、九州産交バスとしては基準があるが、時刻表の文字のサイズ等について各社で使用しているシステムがばらばらなどの理由から、共同のバス停では対応できていないため、仕組みを統一化していく必要があると考えている。
・各バス停（ハード面）については、バス事業者だけでは対応できない部分もあるため、行政と相談しながらバリアフリー化に取り組んでいきたい。

八幡会長
・22 ページの生活関連施設の設定の考え方について、熊本市としての対象規模の目安が示されているが、対象となる施設はどのようなものか例を挙げていただけると、委員としても規模が妥当かのイメージがしやすい。

事務局
・対象となる施設について、中心市街地では鶴屋、COCOSA、サクラマチなどが挙げられる。また、ゆめタウン大江なども対象となっている。1,000 ㎡というのは、大規模小売店舗立地法に基づく一定規模以上の施設として設定している。
・バリアフリー化を全ての施設で進めていくことが理想ではあるが、店舗が狭くなるほど利用頻度が少なくなると想定しており、一定規模以上の施設から重点的に進めていくこととしている。

八幡会長
・生活関連施設については、22 ページの備考欄にあるように、意見を踏まえて柔軟に設定いただけるのか。

事務局
・対象規模は目安であるため、要望があれば施設関係者と調整したうえで生活関連施設として位置付けることは可能と考えている。

長江委員
・２３ページの特定道路については非常に広い範囲で設定されており、対象の道路を障がい者が実際に使うかどうか疑問がある。

事務局
・多数の高齢者や障がい者等の利用が見込まれる道路が国土交通省により特定道路として指定されており、今回バリアフリープランにて特定道路も生活関連経路に位置付けて整備を進めていく予定。

井坂委員
・22 ページの生活関連施設の考え方で、旅客施設については対象規模の目安が平均乗降客数 100 名以上／日となっているが、JR であってもバス停であってもこの目安となるのか。

事務局
・23 ページに経路の設定の考え方を示しているが、旅客施設の周りに利用が見込まれる施設が無い場合は整備の効果が期待されないため、平均乗降客数 100 名以上／日のすべての旅客施設が設定されるのではない。目安としては 100 名以上だが、周辺施設の立地状況や、将来的に施設が建設される可能性を考慮しつつ設定したい。

オノユリ委員
・生活関連施設について、スーパーはどうしても行かなければならない状況が発生しうる場所だと思うが、スーパーのような施設は対象とならないのか。

事務局
・スーパーも延床面積 1,000 ㎡以上の施設は生活関連施設の対象としており、例えばサンリブ健軍店、コスモス九品寺店、ゆめマート大江などが対象となっている。

坂口委員
・22 ページについて、生活関連施設として挙げられる施設は、移動に課題を抱える方でも訪問できるような施設になるのではないかと思うが、現状あるバリアフリーをさらによくしていくとの考えか。
・上通、下通、健軍商店街などの商店街は対象とならないのか。
・生活関連施設の位置付けは、移動等円滑化促進地区のみという理解でよいか。

事務局
・バリアフリー化されていない施設については、ハード面の改修を行っていただけるよう進め、既にバリアフリー化されている施設については、さらに心のバリアフリーなどの観点からご協力いただけるよう進めていきたい。
・商店街は生活関連施設に設定することは想定しておらず、あくまでも対象規模の店舗等について生活関連施設に位置付けられるよう調整しているところである。
・生活関連施設は中心市街地、九品寺・水前寺、健軍の移動等円滑促進地区内の位置付けである。

＜事務局から協議事項について説明＞
（１）取組方針の検討について
（２）バリアフリーマップの作成について

長江委員
・バリアフリーマップについて、施設に関する情報は良いが、その施設に行けるのかどうかが重要であるため、経路についても情報提供してほしい。
・各施設でバリアフリーに関する資格を持った方がいるなど、ソフト的な情報も示すとよい。

事務局
・施設のバリアフリー情報だけでなく経路等を含め、30 ページに記載しているイメージのように他都市の作成事例を参考にしながら検討していきたい。

竹内委員
・バリアフリーマップが活用されれば嬉しいが、運営としてブラッシュアップをどの程度考えているか。また、市民の声が反映されるのであれば、市民と共同して作り上げることができるのではないか。

事務局
・正しい情報を伝え続けるためには情報のブラッシュアップが重要であると考えている。市民意見を随時マップ上に反映していくことはハードルが高いが、更新作業を含めて検討し、バリアフリーマップの作成イメージが固まり次第、協議会で報告する。

井坂委員
・バリアフリーマップは随時更新が必要であるが、それが非常に大変だと感じる。他都市の先行事例においてはどのように更新しているのかも含めて勘案し、労力が簡素化されるような方法を検討してはどうか。

事務局
・他都市でバリアフリーマップを作成している自治体は多くあるため、事例を整理しながら、市独自のものとして検討していきたい。

相藤委員
・15 年ほど前、トイレに関するバリアフリーマップを作成したことがある。
・市電の軌道に車椅子やベビーカーが引っかかるというご意見は昔から挙げられており、都度改善されているが、解消することはなかなか難しい面もある。まちあるきで挙げられた多様なご意見を踏まえ、「ここは段差に引っかかりやすいので注意が必要」などの注意点もマップに示してはどうか。
・デジタル技術も活用することで、県外からの観光客も含めてとても役立つと思う。

坂口委員
・学生時代に崇城大学の古賀先生が代表されている「車椅子ナビ」という取組に参加し、ひとつひとつ丁寧に道を見て回った経験がある。これまでの個々の取組での情報も活用できればよい。

事務局
・大学等の教育機関との連携は今のところ予定していないが、古賀先生からもご意見を個別にいただいているため、研究分野からもアドバイスをいただきながら検討していきたいと考えている。

八幡会長
・以前特別支援学校附属に所属していたが、バリアフリーマップが作成されれば、子どもたちがまちあるきを体験することもできるようになると思った。
・バリアフリー情報がどれだけ蓄積されるかが重要である。

植田委員
・バリアフリーマップは素晴らしいアイデアだが、町は日々変化していくものであるため、定期的な情報のアップデートが必要となる。
・情報提供の努力義務では十分に情報が集まらない可能性があるため、UD くまもとや崇城大学などの第三者機関や、市の担当部署でまちあるきを行うなど、どのように更新していくかを具体化しておく必要がある。
・市民意見を受け付ける窓口を設置してはどうか。以前、店舗自体はバリアフリー化されているが、そこまでの経路が飛び石になっていることがあり、そのような場合にバリアフリーマップの情報を修正できるような仕組みがあるとよいと思う。
・バリアフリーマップ上に喫煙所をマッピングしていただきたい。オープンな喫煙スペースだと周囲に煙が漂ってしまうが、化学物質過敏症の方は症状が重くなると外出することも難しく、外出の必要がある際には数日前から体調を調整の上出かける。そのため、喫煙所のマッピングがあると、化学物質過敏症の方だけでなく、喘息の方、反対に愛煙家の方にとっても役立つのではないか。

長江委員
・熊本のバスのオープンデータが先進的でバス停や経路、運行情報等が得られるが、このような既存のデータやシステムと連携すれば、より便利になるのではないか。

事務局
・本日はまずバリアフリーマスタープランにバリアフリーマップを位置付けて良いかを協議いただく予定としていたが、その先を議論いただき、前向きなご意見をいただいた。今後、運用面についても検討を進め、協議会で共有させていただきたい。
・協議会のご意見については、バリアフリーマスタープランにしっかり反映していきたいと考えている。

- 生活関連施設の対象規模については、可能な限り皆様が多く利用している施設を位置付けたいと考えているが、施設管理者からは施設が古いため難しいとのご意見もある。今後も粘り強く協議、調整を行いながら進めていきたい。
- バリアフリーマスタープランは、今年度末の策定時点で終わりではなく、まちあるきを引き続き行い、随時ご意見をいただきながら、段階的な見直しにより成長していくような計画としたいと考えている。
- 令和４年度第２回協議会は 10 月頃を予定している。

以上